

第2回札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議 議事録

日時： 平成29年9月11日（月）16:00～18:00

場所： 大倉山ジャンプ競技場内運営本部棟3階プレスルーム

出席者：

○委員

北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科 教授	山本 理人	委員
オリンピックミュージアム名誉館長、 競技団体連絡会議アスリート部会会長	阿部 雅司	委員
北海道オリンピック・パラリンピアンズ事務局、 競技団体連絡会議アスリート部会副会長	鈴木 靖	委員
夏季オリンピック	成田 郁久美	委員
冬季パラリンピアン、 競技団体連絡会議アスリート部会委員	永瀬 充	委員
西区PTA連合会会長	荒 光弘	委員
平岸高台小学校校長	大牧 眞一	委員
東月寒中学校教頭	秀島 起也	委員

欠席者：

札幌オリンピックミュージアム監修者、中京大教授、 JOA(Japan Olympic Academy)委員	來田 享子	委員
--	-------	----

次第：

1 開 会

2 議 事

(1) 札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデルについて

(2) 素案の検討

3 閉 会

《配布資料》

資料1-1 第1回検討会議 意見要旨

資料1-2 第1回検討会議 議事録

資料2 副教材および実践事例の素案について

資料3 副教材素案

資料4 実践事例素案

発言者	発言要旨
1 開 会	
山本座長	<p>第2回札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議を開会する。本会議は、札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議設置要綱の第4条第4項により、委員の過半数の出席が必要だが、本日の出席者は委員9名のところ7名に出席いただいているため、会議は成立となることを報告する。</p> <p>(※遅れて鈴木委員の出席があったため、結果的には全員で8名の出席となった。)</p> <p>本日の会議だが、まずは第1回目の会議の振り返りを行いたい。前回の会議では、各委員に「札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデル」、「札幌らしさを生かしたオリパラ教育の実践事例集と副教材」という二つのテーマについてご発言いただいた。これらの意見を資料1にまとめているため、こちらをご確認ください。</p>
2 議 事	
(1) 札幌オリンピックミュージアムの活用した学習モデルについて	
山本座長	<p>それでは議事を進めさせていただく。</p> <p>議事(1)の札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデルについてだが、今現在、大倉山ジャンプ競技場および札幌オリンピックミュージアムの視察を終えたところなので、このミュージアムを活用するのにどのようなことが考えられるのか、率直にご発言いただきたい。</p>
荒委員	<p>私自身もとても勉強になった。改めて札幌オリンピックの位置づけを考えるときに、札幌市のここ40~50年の発展と密接に結びついていることがミュージアムを通して理解できた。前回の会議までは、社会科の授業の中でどうして取扱うのかと懐疑的なところがあったが、ミュージアムを拝見してとても理解できた。というのも、札幌の歴史と札幌オリンピックは大変深い関係があり、オリンピックを機転に札幌が新たな発展を遂げたことが改めて分かった。また、次のオリンピックを札幌に誘致したいということ、そして更なる発展に繋げたいということも理解できた。</p>
山本座長	<p>視察の最初のルートでシャンツェの頂上まで登ったが、そこで風景を見ながら、まちを一望できるところでスポーツ施設がまちづくりと関係していることを体感し、ミュージアムに行き歴史のコーナーを学ぶこと</p>

<p>秀島委員</p>	<p>は、社会科というテーマに非常にふさわしく思う。</p> <p>小学校3年生を対象にすることで話が進んでいるが、そうすると体験を行うことが重要に思う。また、いくつか気になることを挙げると、ミュージアム内の札幌オリンピックやオリンピックの歴史を紹介する部分で、字の大きさや漢字にルビがないこと、大人ならじっくり読んで勉強になるが小学校3年生が立ち止まりじっくり読めるのかは不安に思う。そして、メダルなどの展示もあったが、レプリカでいいので触ったり、首から下げられる展示があればいいと思った。アスリートのウェアの展示には、名前は書いてあるが写真がないため、顔写真があるとどのような人なのか分かり、子どもたちにもグッとくるのではないだろうか。パラリンピックのコーナーは、スペース的な問題もあると思うが、もう少し広くしてもいいのではないかと思った。パラリンピックの競技自体、大人でも言えないものがあるため、パラリンピックの種目が子どもに分かりやすく伝えられる展示があればいいと思う。ジャンプ台に登ることは、子どもたちは喜ぶだろう。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>小学校3年生なので難しいことは分からないと思うが、ボリュームが多いため分かりやすくポイントを絞り、何を子どもには伝えるべきなのか2つか3つくらい決めるといいと思う。</p>
<p>山本座長</p>	<p>素晴らしい施設であるが、小学校3年生の発育・発達の水準と社会科を切り口とすることを考えて、小学校3年生がどのようにしたら理解しやすくなるのかを考えなければならない。例えば、補助的な写真を掲示したり、事前事後の指導で焦点化を図ることも必要に思う。</p>
<p>(2) 素案の検討 ①副教材について</p>	
<p>山本座長</p>	<p>副教材の素案を検討するにあたり、まずは岩田指導主事からご説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回の会議から、作業部会にて具体的な検討をしてきたため、まず資料2をもとに概要を説明させていただく。</p> <p>一つ目に、市内全小学校3年生に渡すものとして、コンセプトおよびページレイアウトを話し合った。コンセプトは、ミュージアムに来館しなくても、学校でも家庭でも使ってもらえるようなもの。キーワ</p>

山本座長	<p>ードは、資料2でまわりに散りばめられているもの。</p> <p>二つ目にパンフレットなので、ページ割りについて話し合った。まず、社会科の学習で使えるものを6ページ分考えた。「写真」、「写真＋解説」、「ミュージアム」とあるが、後ろの副教材案と前後しながら見ていただきたい。「写真」は大倉山から見える札幌市の様子ということで、これは、私たちの市の様子という社会科の学習で基本的に8時間ほど行っている。この学習の一部として活用できるのではないかと考えている。大倉山が札幌市のどこにあって、どこを向いている写真なのかは左下に記載があり、本市のキャラクターである“ちっきゅん”が登場するというつくりになっている。次の「写真＋解説」のページは、公共施設の学習をするため大倉山から見える公共施設の紹介があり、次の指導要領では今と昔を比べる学習があるため、右のページには札幌オリンピック当時の写真を掲載している。そして、次の「ミュージアム」のページでは、行けない子にとってもホームページを見ながら調べ学習に使えるなど、社会科をメインとしたつくりになっている。</p> <p>次に、この後のページとして、「オリパラ」、「道徳＋総合」、「事後学習」とあるが、オリンピック・パラリンピックそのものについての知識を学ぶページ、道徳や総合学習をイメージしたページ、事後学習のページと考えている。具体的には、副教材案を見ていただくと、「オリパラ」については国からの資料等も参考にしながら3年生が楽しく学べるつくりとしている。次の「道徳＋総合」については、初めて総合的な学習を行うのが3年生のため、テーマの決め方や調べ学習の進め方にもつながるつくりとしている。また、道徳の学習を意識して、阿部さんや永瀬さんの目標に向かってがんばり続けたお話を載せることで、道徳の価値項目と関連付けて学習することもできるようにしたいと考えている。背景が黄色の部分は総合をイメージし、青色の部分は道徳をイメージしている。最後の「事後学習」については、夏休みや冬休みの自由研究にも生かせるようなつくりとしている。</p> <p>まだ素案であるため、たくさんのご意見をいただき、完成に向けて進めていきたい。</p> <p>まずは作業部会の先生たちに、忙しい中素案を作成いただき感謝申し上げます。より良いものを作成することがこの会の責務であるため、忌憚のない意見を頂戴したい。内容の比率等もまだ確固としたものがある訳ではないため、さらに盛り込みたい情報やバランスを取った方が良い部分があれば、積極的に発言いただきたい。</p>
------	--

大牧委員	<p>小学校3年生なので、本物から学ぶことや体験的に学ぶということがキーワードになると思う。副教材のコンセプトは、そこに誘うというか、本物に触れる入口になればいい。社会科となると、札幌のまちの要素が優先順位で上に来るため、オリパラを絡めることはできるが少し弱いとも思う。様々な教科や領域、家庭や自由研究などにも広がるような教材であってほしい。具体的には、ページ割りのところで、「写真」の部分逆サイドから、つまり、まちから大倉山シャンツェを眺める写真もあればいい。最初の表紙からの1～2ページは、オリパラに誘い込むような鳥瞰図であってほしい。これにより、この後のページ展開もスムーズになると思う。また、「オリパラ」の部分では、是非体育の視点を入れていただきたい。例えば、特別な教育的支援を必要とする子どもへの体育授業が現在求められているが、例えばシッティングバレーなどのネット型スポーツを1～2時間体験することで様々な人がスポーツを通して交流していると感じられる。もう一つは、歩くスキーを考えると、近くて遠いため中々体験できていないのが実情だが、中島公園や滝のすずらん公園では無料で貸し出しを行っているため、このようなところに子どもたちが行きたくなくなるようなきっかけにもしたい。</p> <p>このようなことを考えると、副教材の中には社会科の学習で使うイメージができたり、体育の授業の中で体験的な学習を行えると思えたり、総合的な学習のサンプル事例が入るようなつくりになったらいいと思う。これだけ素材が整っているため、工夫次第で広げられる印象を持った。</p>
山本座長	<p>オリパラのレガシーの全体構造は、まちづくりというハード面もそうだが、運動やスポーツに親しむといったライフスタイルという切り口を載せることもいいのではないかという意見だったと思う。</p>
永瀬委員	<p>パラリンピックでは、車いすと義足が目立つが、それだけだと思いは間違いで、視覚障がいや知的障がい、小人症の人もある。健常者が一緒にプレーをしてメダルをもらうこともできる。特に知的障がいはパラリンピックからでも見えてこない。今までの日本の教育では、知的障がいを伝えることは難しかったと思うが、それを伝えずに子どもたちが成長すると、世の中に先入観を持ち、今の世の中と同じになってしまう。</p>

山本座長	<p>パラリンピックの注目度が高いことはいいが、一方で、知的障がいは見えづらくなっている。パラリンピックといえば身体障がいというような偏った見方がなされているため、見せ方が重要に思う。また、小学校3年生ということで、中々難しいとは思いますが、まちづくりやまちの在り様、生活というものを多様な人たちが住む場所であると気づいてもらうことはいいこと。現状、多様な人と一緒に生活しなくても済んでしまうため、これを打ち破る契機として、社会には多様な人がいることを教えることは重要だと思う。</p>
永瀬委員	<p>パラリンピックを教えられる大人は世界にもほとんどいないと思うため、先生たちもやりづらいただろう。しかし、スポーツを通してこれまで踏み込めなかったところに踏み込めるチャンスかなとも思う。</p>
大牧委員	<p>この副教材案はよくできているが、永瀬委員や山本座長の発言を聞いてふと思ったのだが、オリンピック・パラリンピック教育の副教材なのにいきなり社会科の要素が強い鳥瞰図が入っているのだろうか。オリンピック・パラリンピックそのものについて学べるように、クイズ形式のページだけでなく、丁寧に伝える必要があるのではないか。オリンピック・パラリンピック教育の副教材だとしたら、その中に社会科として使い方、体育での使い方、総合的な学習や道徳での使い方、あるいはその他の使い方があるような展開ができればいいと思う。現状案のものを手にしたら一般には社会科の副読本に見えるだろう。</p>
山本座長	<p>見せ方の手順として、まずはオリパラの部分をメインに持ってきて、その後にまちづくりや社会科の部分に繋げる方法もあるということでした。</p>
鈴木委員	<p>質問ですが、7ページのオリンピッククイズのページで、「夏のオリンピックは、何年に1回開かれますか？」という問いがあるが、“夏の”と記載したのには何か意図があるのか。</p>
事務局	<p>冬との違いを出す表現として”夏の”という表現を使用した。子どもによっては夏と冬のオリンピックを併せると、オリンピック自体は2年に一度来ると思っているため。</p>

鈴木委員	<p>それでは、“夏の”ではなく“夏や冬の”という表現を使ったらいいのではないか。オリンピックという4年に一回の周期があるため、これを教えるためには表現を変えた方がいいと思う。</p>
山本座長	<p>改めて、副教材案のページ数は11ページもの（表紙を入れて12ページ）ということでいいか確認です。</p>
事務局	<p>11ページものから1ページも増やせないということはないため、多少の増加であれば対応できる。むしろ授業で使いきれ分量なのであれば増ページはいいと思う。</p>
山本座長	<p>要素を加えることもできるということでしたので、そのような意見もご発言いただければと思います。</p>
鈴木委員	<p>それでは、7～8ページのオリンピック・パラリンピックそのものに関するページを増やしたらいいと思う。</p>
山本座長	<p>オリンピック・パラリンピックは単なるスポーツの祭典ではなく、まちづくりやライフスタイルにも影響を与えたことが分かるという順序で伝えられたらいいと思うが、この辺りもまだ検討できる状況に思う。</p>
阿部委員	<p>先ほど歩くスキーの話題が出たが、大倉山からまちを見下ろす写真の中で、中島公園で歩くスキーができることや月寒ではカーリングができるなど、札幌市内で様々なウインタースポーツができることを伝えるのもいいと思う。また、5～6ページにミュージアムのことがあるが、9ページと内容が被っているため、まとめることができれば、オリパラそのものの学習である7～8ページの分量を増やせるのではないかな。</p>
山本座長	<p>まちと関連付けると、スポーツに関係する施設を体育的な目線で紹介し、実際にスポーツに取り組んでみようという啓発してもいいのではないかな。</p>
大牧委員	<p>本副教材は、学校に閉じず、家庭や自由研究でも取扱って欲しい。本物に触れることが重要だと思うので、より知ってもらい行ってもらう啓発ができるといい。総合的な学習の時間が70時間ある中、10～15時間はオリンピック・パラリンピックあるいは雪のある札幌ということ学んでもいいのではないかな。願わくは、全小中学校でオリンピック・パラリンピッ</p>

	<p>クの勉強ができるという夢を持って発信したい。</p>
山本座長	<p>事務局でも副教材を学校に閉じないという考えを持っているため、スペースに限りはあるが、施設紹介もコラムのように盛り込めたらいいと思う。実際に家族でスポーツに取り組むことに繋がるといい。</p>
大牧委員	<p>コラムや噴出しもいいが、この時代なので QR コードを埋め込み、家族で眺められるようなものにしていいのではないか。</p>
永瀬委員	<p>作業部会の先生たちの中に、特別支援学校の先生はいたか。</p>
事務局	<p>いない。</p>
永瀬委員	<p>この副教材を障がいのある子どもたちにも読んでもらうという視点を持つべき。この視点がないとパラリンピック教育をする意味がないと思う。障がいを持つ子どもたちに何が伝えられるのかを考えなくてはならない。グッドマンの「失われたものを数えるな、残された機能を最大限活かせ」という言葉を入れてもいいのではないか。</p>
山本座長	<p>障がいのある子も分け隔てなく使えるようなつくりに行けることが一つの理想だと思う。また、パラリンピックの歴史や意義もわかりやすく載せることも重要に思う。</p>
成田委員	<p>スペースの問題や地域の特性もあると思うが、夏の競技も加えてほしい。また、ジャンプ台を視察したときにジャンプ台のレールのことなどシステムについて話を聞いておもしろかったが、選手のことだけでなく、道具のこと、選手を支える人たちの仕事などにも広げられると、スポーツが不得意な子どもでもスポーツに関われる方法を見つけられると思う。</p>
山本座長	<p>最近のスポーツには、やるスポーツ・見るスポーツ・支えるスポーツ・知るスポーツ・つくるスポーツというコンセプトがある。例えば、スポーツの技術的な視点に興味を持つ子どもがいたとき、小学校3年生では無理だと思うが、高学年や中高で取り組む機会が出てきたためのために構想に入れておいてほしい。</p>

荒委員	全体の構成を見るとオリパラそのものを扱うページ数が少ないように思う。子どもたちがこの教材を手にしたときに何の教材か分かる方がいい。そういった意味では、表紙で色が明確に決まるのではないかとも思う。
永瀬委員	ハード的な要素が多いので、札幌オリンピックでのボランティアのことなどソフト的な要素も載せると、もし自分のおじいちゃんおばあちゃんがボランティアに携わっていたなら、実際の話を知ることができるなど、より興味を持てると思う。
山本座長	ハードウェアはレガシーとして分かりやすいが、ソフトウェアでは人がどう成長できたか、人がどう変わったか、または、今後オリパラを招致するときに人というものが社会の中でお互い支え合える存在になれるかどうかということは教育的に重要なポイントだと思うため、紙面のスペースが許せば入れていただければと思う。
鈴木委員	オリンピックマークとパラリンピックマークの使用許可は取るのか。
事務局	完成のときには許可を取る予定。
山本座長	東京の教材では表紙にオリンピックマークやパラリンピックマークがないことに違和感を覚えていた。
鈴木委員	もし使用不可能となれば、5つの色を使って図を作成してはどうか。
事務局	東京 2020 のエンブレムは申請さえすれば使えるはず。
大牧委員	白いオリンピックマークおよびパラリンピックマークの図形に自由に色を塗ってみようという塗り絵形式にしてもおもしろいのではないかな。ただ、マークの形すら使えないと指摘されるかもしれない。
永瀬委員	それなら図形も自分で書いてみてはどうか。
大牧委員	コンパスを使えば、算数の学習にも繋がる。
事務局	コンパスは丁度小学校3年生から使い始める。

永瀬委員	副教材の中で使用する写真は、夏と冬、男女などバランスよく使えたらいい。
(2) 素案の検討 ②実践事例について	
山本座長	<p>それでは中高の実践事例について、岩田指導主事からご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>まず、小学校の補足として、副教材の作りがはっきりした段階で実践事例を作っていくこととしている。また、永瀬委員からもご紹介いただいているパラサポセンター教材「I'm POSSIBLE」の使い方も実践事例に組み入れていきたいと考えている。</p> <p>中高については、1~2時間の作りとなっているが、このような学習指導案を用いていつも授業を進めている。少し専門的な部分もあり見にくいと思うが、ご説明させていただく。</p> <p>小学校3年生のものは社会科にて事前事後学習を行う場合の例を作成したもの。中学は、現状、体育理論という学習の中で、中学校3年生だけがオリンピック・パラリンピックそのものについて学習する機会がある。これは全国の中学校3年生がやっていること。ここに札幌市の特色として、中1~中3で、今ある体育理論の中にオリンピック・パラリンピックについての学習を扱えるように位置づけすることで、毎年取扱えるようにしようとしている。ここには、国が作成した資料の活用例を入れて、国の資料も使ってもらえるようなつくりとしている。この他に話題に出たのは、体育の先生だけがオリパラ教育に関わることになってしまうということ。学校全体として取組むためには、例えば、道徳の学習であれば全担任の先生が行うため、道徳の学習でオリパラを題材にすることができないか議論の話題になったが、教材をどうするのかといった課題があり、具体的にできていない。これについてもご意見をいただければと思う。高校については、昨年度の札幌市オリパラ教育推進事業で実践したものを事例としている。一つは、体育理論でアンチドーピングについて学習することとなっているが、その後に特活や総合的な学習の時間を用いて発展的な学習ができないかという事例。もう一つは、昨年度カーリングの目黒選手に学校に来てもらい実施したものだが、オリパラの招致について事前に各自考え、オリンピック・パラリンピックの話を実際に聞く、そしてメリットデメリットを含めてさらに考えるという事例。</p> <p>作業部会の先生たちにこのような事例をかたちにさせていただいた。</p>

山本座長	<p>中高については、まだ議論の余地があるが、視点として事例を提示いただいたので、お気づきの点があればご意見を伺いたい。</p>
鈴木委員	<p>高校でアンチドーピングの話が出てきた。皆さんもご存知かもしれないが、法律ができることになっている。もしドーピングについての教材が必要であれば、私は日本アンチドーピング機構のアスリート委員なのでサポートもできると思う。また、昨日出た話したが、サプリメントの成分表示と中身に誤りがあり、自転車の選手が4ヶ月の出場停止になった。ただ、今起きている問題というのは、アスリートが違反成分を摂取しても4ヶ月経てば出場できるなら、逆算をして服用しようとしていること。そのため中学生くらいから薬の恐ろしさを伝えてもいいのかなと思う。</p>
山本座長	<p>選手の倫理観によるところが大きいですが、システムとしての問題もある。高校レベルであれば、切り口がドーピングと決められていても、中身を掘り下げた議論を行うことができるだろう。アンチドーピングをきっかけに、日常生活の薬物乱用が低年齢化している問題や、我々の知らないところでソフトな麻薬が増えていることも考え、薬物に対する構えを取ることやドーピングがトップアスリートだけに限られたものではないことへの理解に繋がれたらいい。また、前回も話題に出た負の遺産については、中学の後半から高校まで、解決できない答えのない課題として議論できるものだと思う。</p>
永瀬委員	<p>クラスに障がいのある子がいて、体育の授業はいつも見学をしているのが現状なため、一緒にどうできるのかを考えてほしい。</p>
山本委員	<p>インクルージョンやインクルーシブは重要なキーコンセプトだが、現場目線で考えるとハードルの高さがあるのも実情。とっつきにくいところはあると思うが、改善に向けて進んでいける現場になってほしい。</p>
3 閉 会	
山本座長	<p>作業部会の先生には、このような叩き台を作成いただき感謝申し上げます。できることとできないことを取捨選択いただき、本日の意見を参考にさせていただけたらと思う。</p> <p>これで第2回オリパラ教育検討会議を終了する。</p>